

第 1 回 県内技術研究発表会（平成 1 8 年 2 月 1 7 日）

| | 論文題名 | | | |
|-----|---|---|----------------------|---|
| 1 | 配筋における設計と施工の不具合について | 浜田土木建築事務所 工務部河港砂防 1 G | 技師 加藤典彦 | |
| 2 | から枿貯水型植生ブロックによる 地球温暖化対策 | 木次土木建築事務所 | 主幹 福田尊弘 | |
| 3 | 学識経験者の意見を踏まえた トンネルの施工管理 | 川本土木建築事務所 工務部道路建設 1 G 工務部道路建設 2 G | 主任 桐原 仁 主任技師 高本直史 | |
| 4 | 史跡田和山遺跡保存に関する工法 | 松江市建設部土木課 | 専門技術員 松本 崇 | |
| 5 | 浜田川下流の水位予測について | 浜田ダム管理所 | 主幹 勝部利夫 | |
| 6 | 松江市美保関町特定環境保全公共下水道 七類浄化センターの概要 | 松江市建設部 下水道工務課 | 課長 渡部 修 | |
| 7 | 水中橋脚の耐震補強における新工法について | 松江土木建築事務所 維持管理 G | 主任 板倉広樹 | |
| 8 | 針葉樹合板型枿を使用した溪間工事 | 木次農林振興センター | 主任技師 山崎新太郎 | ○ |
| 9 | 軟弱地盤により沈下した橋台 (国道 2 6 1 号久坪バイパス事業) | 浜田土木建築事務所 道路 1 G | 主幹 稲田佳朗 | ○ |
| 1 0 | 布施川における土石流対策の事例報告 | 土木部砂防課 | 技師 新田 努 | |
| 1 1 | わかりやすい情報提供を目指した 隠岐空港整備事業における取り組み | 隠岐支庁空港建設局 建設 1 G 建設 2 G | 技師 村川威臣 技師 高見昌樹 | |
| 1 2 | 歩行モデル展示場物語 | 松江土木建築事務所 工務部都市整備 G | 成相 剛 | ○ |
| 1 3 | 防災から減災へ ～住民参加による警戒避難体制～ | 土木部砂防課 | 技師 河上浩三 | |
| 1 4 | 公共事業と住民参加 実践と課題 | 松江土木建築事務所 広瀬土木事業所 道路建設 G | 主幹 佐川竜朗 | |
| 1 5 | みんなでつくろう！あんしん浜田 あんしん歩行エリア交通安全ワークショップ について | 浜田市建設部 建設整備課 | 川邊史朗 | ○ |
| 1 6 | 土木技術者としてのアカウンタビリティ | 斐伊川神戸川対策課 | 副主査 岡 正志 | |
| 1 7 | 「高速道路を活用した地域づくり」の支援 | 高速道路推進課 | 主幹 田中 悟 技師 今川 文 | |

○…優秀賞

平成17年度 県内技術研究発表会 日程表及び発表者論文の概要

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 開会 | 8:50 |
| 2. 挨拶 | 8:50～ |
| 3. 発表会における留意事項等 | 8:55～ |
| 4. 研究発表会 | 9:00～ |

| 一般部門 | |
|--------------|--|
| 1 9:00～ | <p>【配筋における設計と施工の不具合について】 浜田土木建築事務所 技師 加藤典彦</p> <p>現場では、ひとつの構造物をつくるにあたり、品質・原価・工程・安全管理等を確実に実施し、様々な問題や課題をひとつずつ解決して品質の良い構造物をつくりあげる努力をしている。 そのためには発注者、設計者、施工業者が互いの立場を尊重しながら同じ目的のもとに協力し合うことが大切だと考える。 本発表においては、民間の建設会社時代に現場で経験した配筋の不具合事例をもとに、発注者としてとるべき行動について考えたい。</p> |
| 2 9:20～ | <p>【から桝貯水型植生ブロックによる地球温暖化対策】 木次土木建築事務所 主幹 福田尊弘</p> <p>環境保全型ブロックに高木を繁殖させることで、吸収能力を持つ森林吸収源を確保し、二酸化炭素などの温室効果ガスを削減できることに着眼した。このテーマに対し、調査・計画・設計・施工に精通していることで、ブロック開発、模型実験等に対し指導・助言を行い、試験施工によりその効果を確認したものである。この対象となった環境保全型ブロックが「から桝貯水型植生ブロック」であり、その効果について発表する。</p> |
| 3 9:40～ | <p>【学識経験者の意見を踏まえたトンネルの施工管理】 川本土木建築事務所 主任 桐原仁、主任技師 高本直史</p> <p>トンネル工事は施工事例が少なく、私たち行政経験者の経験も不足しており、的確な判定に苦労しているのが実情である。トンネル工事で最も重要なことは、地山分類の決定である。調査・設計段階から地山分類には慎重をきしているが、最終的には施工時の地山判定によるもの大きい。 そこで、学識経験者の意見を踏まえたトンネルの施工管理について、川本土木建築事務所管内での2つの山岳道路トンネルの事例により今後の課題について発表する。</p> |
| 4 10:00～ | <p>【史跡田和山遺跡保存に関する工法】 松江市役所 専門技術員 松本崇</p> <p>松江市は、市民に愛され、親しまれる「田和山史跡公園」とするため、平成14年12月より、文化庁補助事業として、史跡田和山遺跡整備工事を実施してきた。田和山遺跡は国の「史跡」であるため、恒久的に保護し、かつ地域の歴史を物語る遺跡として広く公開する必要がある。とりわけ、保存という観点から、現状を変更する行為については、文化庁において審査され、認可を受けた後実施している。審査にあたって、①整備後の姿が、学術的に妥当性があり、史跡として価値を損なわない物かどうか。②発掘調査によって明らかになった遺構面(多くは地山面)に影響を与えないかどうかの問題点を整備工事における条件・制約をクリアするために採用してきた連続繊維補強土壁工法について、施工例を紹介する。</p> |
| 5 10:20～ | <p>【浜田川下流の水位予測について】 浜田ダム管理所 主幹 勝部利夫</p> <p>平成13年6月の水防法改正により、今後県が気象庁と共同して洪水流量、水位等予報を発表する計画があること及びダムからの放流により、浜田市に洪水で避難を呼びかける必要があることから下流の水位予測が必要となるため、今回水位予測について発表する。</p> |
| 6 10:40～ | <p>【松江市美保関町 特定環境保全公共下水道 七類浄化センターの概要】 松江市役所 課長 渡部修</p> <p>七類地区の下水道整備に伴う処理場の選定及び建設にあたっての景観面からの配慮について発表する。</p> |
| 7 11:00～ | <p>【水中橋脚補強における新工法について】 松江土木建築事務所 主任 板倉広樹</p> <p>平成7年に発生した兵庫県南部地震以降、各種土木構造物に対し耐震補強が進められており、橋梁においても橋脚の補強工事が数多く実施されている。 その中で、補強部が水中に位置する水中橋脚は、コンクリート巻き立てなどの従来工法を行うにあたり仮締切によるドライ施工が必要となるが、大規模な仮設設備の検討や河川等周辺環境への影響が懸念され工法の選定が難しい状況にある。 今回、施工が困難な水中においてRC橋脚の補強を行った作橋(さくばし)の耐震補強について施工概要を報告する。</p> |
| 8 11:20～ | <p>【針葉樹合板型枠を使用した溪間工事】 木次農林振興センター 主任技師 山崎新太郎</p> <p>島根県では、豊富にある木質資源の積極的な活用を行い、「伐採」～「加工・流通」～「消費」～「植林・育林」～「伐採」の円滑な循環を促すことにより、環境保全と経済発展の両立を図るため、平成16年3月に「島根県木質資源活用維新計画」を策定した。 中でも県産木質資源の需要拡大への具体的な取り組みとして、「公共建築や公共事業に県産材を着実に利用していく取り組み」を掲げ、公共事業で積極的に県産材を使うよう取り組んでいる。 その一環として、「県内産スギ間伐材を使用した建築構造用合板をコンクリート型枠として試験的に使用したのでその事例を報告する。</p> |
| 9 11:40～ | <p>【軟弱地盤により沈下した橋台(国道261号久坪バイパス事業)】 浜田土木建築事務所 主幹 稲田佳朗</p> <p>平成6年度から国道261号久坪バイパス事業に着手したが、複雑な地形、基礎地盤のため、新久坪橋の施工中に橋台が沈下する事態が生じた。この変状発生メカニズムを解析し、対策工法の検討について発表する。</p> |
| 10 12:00～ | <p>【布勢川における土石流対策の事例報告】 砂防課 技師 新田努</p> <p>平成9年7月12日、旧平田市奥宇賀町地内の布勢川において、大規模な土石流災害が発生した。 この布勢川における土石流災害の実態とその後の復旧対策事例を紹介するとともに、地域住民の事前の避難により人的被害が起らなかった経緯を報告する。</p> |
| 12:20～ | 昼食・休憩 |

| | |
|--------------|--|
| 11 13:20～ | <p>【わかりやすい情報提供を目指した隠岐空港整備事業における取り組み】 隠岐支庁空港建設局 技師 村川威臣、技師 高見昌樹</p> <p>この事業が地域の生活環境に与える影響は非常に大きく、家屋移転数に関連事業も含めると120戸にも及ぶ大規模なプロジェクトである。地元地区住民は過去に空港の新設工事や滑走路の延長工事を経験していることから、事業に対する不安は特に大きいものがあり、用地交渉は事業採択時の予定に比べ3年長く費やされ、着工当初は要望や苦情が次々と寄せられていた。 公共事業全体をとりまく環境としてもアカウタビリティ向上がもたられつつあったことから、主として情報提供によるコミュニケーションの確保を目的としたさまざまな取り組みを発表する。</p> |
| 12 13:50～ | <p>【歩道モデル展示場物語】 ～誰もが使いやすいみちづくりを目指して！住民理解を得ようとする新しい試み～ 松江土木建築事務所 主任 成相剛</p> <p>城山北公園線都市計画街路事業は、都市計画事業としての目的をより効果的に達成し、よりよいまちづくりや”みちづくり(街路整備)”が共に図られるよう沿線住民の理解と協力を得て、連携、協働により様々な取り組みを行っている。 その取り組みの中から沿線住民からの意見・要望により、住民参加で実施設計を行い整備した”歩道モデル展示場”について、整備に至った背景・目的・効果等を完成時に開催した歩道モデル体験会の様子を交え紹介する。</p> |
| 13 14:10～ | <p>【防災から減災へ～住民参加による警戒避難体制～】 砂防課 技師 河上浩三</p> <p>従来から災害への対策として砂防えん堤等の施設の整備を実施し、防災への取り組みを行っているが、県内には約26,000箇所の土砂災害危険箇所があり、その全ての箇所に速やかに対策工事を実施することは困難な状況にある。 そのような状況の中で、住民自ら早めに避難し、災害による被害を最小限に抑える自助による取り組みについて発表する。</p> |
| 14 14:30～ | <p>【公共事業と住民参加 ～実践と課題】 松江土木建築事務所 広瀬土木事業所 主幹 佐川竜朗</p> <p>公共事業を進める中で、透明性や公正性を確保し住民等の理解と協力を得るため、様々な取り組みが行われているが、その中でも計画段階から住民参加が増えている。 しかし、それ自体が制度化までされたわけではないため、まだ試行錯誤が続いている状況にある。今回の発表は、過去の実践を振り返って課題を整理し、これからの公共事業と住民参加のあり方についてまとめ、説明責任(アカウンタビリティ)向上の一助としたい。</p> |
| 15 14:50～ | <p>【みんなでつくろう！あんしん浜田。】 ～あんしん歩行エリア交通安全ワークショップについて～ 浜田市役所 川邊史郎</p> <p>浜田市では、平成15年度より、浜田警察署をはじめ、各道路管理者との連携のもと、生活者の安全を面的に確保する「あんしん歩行エリア」の形成を推進するとともに、事業の施策目標である死傷事故件数を2割抑止、歩行者・自転車の死傷事故件数の3割抑止を目標として交通安全対策を行っている。施策の目標達成のためには、これまでのように行政側が一方向的にハード整備を行うばかりでなく、住民の交通安全意識に訴えかける事業展開を図る必要があると考えた。 そこで、基本方針として、住民参加による交通安全点検・ワークショップの概要につて発表する。</p> |
| 16 15:10～ | <p>【土木技術者としてのアカウンタビリティ】 斐伊川神戸川対策課 副主査 岡正志</p> <p>土木技術者として公共事業におけるアカウンタビリティとはどのようなものかを大橋川に架設された大橋(第17代目)の設計施工の記録から探ってみることにする。</p> |
| 17 15:30～ | <p>【「高速道路を活用した地域づくり」の支援】 高速道路推進課 主幹 田中悟、技師 今川文</p> <p>高速道路の整備効果は、一般道での事故・災害時の代替道路機能や地域医療の向上、地域間交流の拡大など多岐にわたり、その必要性は利用者の多少や採算性だけでは判断できるものではない。しかしながら、都会地や一部マスコミでは地方の高速道路はもういらないと語られており、その早期整備は県の最重要課題であるにも関わらず、整備促進は大変厳しい状況にある。 このような状況の中、当課では今までの行政主体の要望活動だけでなく、整備促進のための新たな要望活動の手法が必要と考え、高速道路を活用した地域振興策を考え、情報発信していくような住民団体を立ち上げ、その活動を支援していく取り組みについて発表する。</p> |

5. 意見情報交換
6. 講評及び表彰
7. 閉会

16:00～
16:40～
17:00